

A全判LED-UV4色機導入

ナカニワ印刷 生産性3割アップへ 短納期対応、事故防ぐ

㈱ナカニワ印刷(本社・東京都江東区福住1-12の11、中庭藤夫社長)が今年5月、リヨビMHIクラフトテクノロジー㈱製のA全判LED-UV4色印刷機「RMGT940ST-4」を導入した。同社にとって初めてとなる全判機であり、LED-UV印刷機となる。東京駅からわずか3分という都心部の好立地に本社工場を構える同社は、主に同業者からの仲間仕事で商業印刷およびパッケージ印刷を手掛け、高いクオリティの印刷製品を即納できる体制を敷いている。そして今回、半裁機から全判機に入れ替えたことによる飛躍的な高生産性、LED-UVによる短納期対応、そしてキズ・コスレなどの印刷事故の防止を図ることができた。この印刷機の導入によって、その体制のさらなる強化を果たした。



中庭社長

同社ではこれまで、菊半裁の4色機、2色機、単色機を各1台と、四六半裁単色機1台、POD5色機1台という印刷機群で生産体制を構築していた。今回の「RMGT940ST-4」は菊半裁4色機との入れ替えとなる。その導入の背景について、同社の中庭社長は「リヨビが世界に先駆けてLED-UV印刷技術を発表してから、LED-UV印刷機にはずっと興味を抱いて注視してきた。リヨビと三菱重工が統合して、先進的なアイデアと技術、頑健な構造といった両社の長所が融合した印刷機となり、さらに魅力が増し

た。半裁機だと通し物やページ物では、全判機の半分の生産性しかない。この印刷機は菊全判機ではなくA全判機なので、従来の菊半裁機を設置していたスペースにも収まって、しかもLED-UVは大きな付帯設備もダクトの設置も不要となる。その結果、同じような工場面積で飛躍的な生産性向上となる」と語っている。

これまで同社の印刷機は、海外製の輸入機がメインとなっていたが、これらの印刷機やPOD機とのカラーマッチングについてもリヨビMHIグラフィックテクノロジーのサポートを受けて、適切な環境を構築。さらにこの印刷機には、印刷品質管理システム「PQS-D」を搭載。この「PQS-D」は、印刷機上に設置したCCDカ

メラで印刷中の用紙を撮像し、用紙抜き取りをせずにインラインで印刷物の欠陥検知を行うとともに、印刷濃度の自動調整も行う。これにより、印



「RMGT940ST-4」

刷品質の安定化、万全の検品体制、そして印刷オ

ペレーターの負荷軽減も図ることができる。

同社では工場全体の生産性を高めるために、時間も手間もかかるインキ替え作業を要する特色の仕事は既設機で、そしてこの「RMGT940ST-4」にはプロセス4色の仕事の方に専念させ

という使い分けをしていく方針。

中庭社長は「当社は小ロット印刷を強みとするとともに、そこに活路を見出しており、平均ロットは1000〜2000通しとなる。したがって、即乾性やオペレーターの負荷軽減は大きな武器となり、この印刷機によって工場全体の生産性を3割以上アップできると踏んでいる。また、これまでインキ乾燥待ち時間を要していたため、余分に納期を頂いていたケースや、受けることができなかった仕事もこなすことができるようになる。これからの当社に、ぜひさらなる期待を寄せて頂きたい」と、今後の展望と抱負を語っている。